

パラミロン研究会の紹介

設立： 2017年7月21日

役員： 7名

【会長】 矢澤 一良 【副会長】 青江 誠一郎 【監事】 竹山 春子
【理事】 大野 尚仁 久保 明 服部 正平 内藤 裕二

会員： 企業 4社、 個人 10名

目的： 本会の目的は、**人々の健康と予防医学に寄与するために、パラミロンの研究に携わる各分野の研究者が情報を活発に交換し、討議する場を提供すること。**

HP： <https://paramylon.jp/>



学術集会： 年1回

2018年11月22日 第一回学術集会開催
2019年11月19日 第二回学術集会開催
2021年12月01日 第三回学術集会開催
2022年11月29日 第四回学術集会開催

パラミロン研究会
Paramylon Association

パラミロン研究会の活動実績 (学術集会以外)

研究成果の紹介

Press Release

2023年1月17日
パラミロン研究会

**世界初！金色のユーグレナ（パラミロン EOD-1）の摂取による
メタボリックシンドローム関連指標の改善をヒト試験で確認**

大妻女子大学 家政学部 青江誠一郎教授（パラミロン研究会（*1）副会長）の研究チームが、軽度肥満の成人男女を対象として「金色のユーグレナ（*2）（パラミロン EOD-1（*3、4））」の摂取によるメタボリックシンドローム関連指標の改善効果を確認しました。本研究は、国際学術誌「Food Science & Nutrition」に掲載されました。

<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1002/fsn3.3130>

今年度の金色のユーグレナ（パラミロン EOD-1）摂取試験により、メタボリックシンドロームの予防・改善に必要な作用が明らかになりました。

- ・ヘモグロビン A1c (HbA1c) (※) の値を改善 (図 1)
- ・アディポネクチン (Ad) の分泌低下を抑制 (図 2)
- ・内臓脂肪を低減 (図 3、4)。

これまでに金色のユーグレナ（パラミロン EOD-1）が食後の血糖値や内臓脂肪量を低下させることを動物実験において確認していましたが、今回、ヒトにおいても同様の効果があることが世界で初めて実証されました。

Nutrients 2019, 11(7), 1674; <https://doi.org/10.3390/nu11071674>

金色のユーグレナ（パラミロン EOD-1）は、腸管の細胞を刺激することで作用すると考えられています。腸管から脂肪組織や肝臓に働きかけることで、血糖コントロールの改善や内臓脂肪の低減に作用し、メタボリックシンドロームを予防・改善することが期待されます。

また本内容はパラミロン研究会第4回学術集会（2022年11月29日（水））にて発表されました。

発表内容は動画配信されています。

<https://paramylon.jp/news/811>

Press Release

2023年10月3日
パラミロン研究会

**金色のユーグレナ®（パラミロン EOD-1）が免疫細胞を活性化状態にすること
をヒト試験で確認
～自然免疫・獲得免疫の両方に働きかけ、風邪様症状の発生を抑制～**

パラミロン研究会（*1）理事である京都府立医科大学大学院医学研究科 生体免疫学講座 内藤裕二教授、東京薬科大学 薬学部 免疫学教室 大野尚仁名誉教授の研究チームが、人を対象とした金色のユーグレナ®（*2）（パラミロン EOD-1®）（*3、4）摂取試験により、多面的な免疫調節機能の評価を行い、自然免疫（*5）（単球）（*6）と獲得免疫（*7）（T細胞）（*8）両方の免疫細胞を活性化状態にすることで免疫機能を維持し、風邪様症状の発生を抑制することが初めて見出されました。なお、本研究は、国際学術誌「Journal of Functional Foods」に掲載されました。

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1756464623004048>

今回、確認された主な結果は以下の通りです。

- ・風邪様症状の発生を抑制する作用 (図 1)
- ・単球の活性化状態を維持する作用 (図 2)
- ・CD4 陽性および CD8 陽性ナイーブ T 細胞を活性化状態にする作用 (図 3)。

単球は主に自然免疫において病原体等の異物を取り込み消化します。その後、獲得免疫への橋渡しとして働き、獲得免疫において中心的な働きをする T 細胞に異物の情報を伝えます。情報を受けた CD4 陽性ナイーブ T 細胞は活性化して、寄与塔役（ヘルパー T 細胞）（*9）として様々な免疫細胞を活性化し、CD8 陽性ナイーブ T 細胞はキラー T 細胞（*10）となって感染してしまった細胞を攻撃します。

金色のユーグレナ（パラミロン EOD-1）は、自然免疫に働く単球と獲得免疫に働くナイーブ T 細胞の働きをサポートすることで、それぞれの情報伝達能力を高めることにより、生体防御機能をつかさどる免疫機能全体に働きかけ、その結果、風邪様症状の発生が抑制されたと考えられます (図 4)。

金色のユーグレナ（パラミロン EOD-1）は、腸管の免疫細胞を刺激することで作用すると考えられています。今後は、この種の免疫細胞に対する作用や免疫細胞間コミュニケーションの詳細なメカニズムを明らかにしていく予定です。